肺がん手術後の再発と顕微鏡所見に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間: 2026 年 11 月 6 日 ～ 2029 年 12 月 31 日

〔研究課題〕 臨床病期 I 期非小細胞肺癌の肺葉切除例における気腔進展(STAS)を含む病理学的因子と術後再発様式に関する後方視的検討

〔研究目的〕 手術で切除した肺がんを顕微鏡で調べたとき、がん細胞がもとの腫瘍から離れた肺胞(肺の空気の袋)の中に散らばって見えることがあります(気腔進展、STAS)。この所見と手術後の再発の起こり方との関係、およびこの所見の判定方法について明らかにすることを目的としています。

〔研究意義〕 再発が離れた臓器と手術をした側の胸のどちらで起こりやすいかが分かれば、手術の方法や手術後の抗がん剤治療の選び方を考える手がかりになります。

〔対象・研究方法〕 すでに承認を受けて実施されている多施設共同研究「ILO2206／YCTS2201」(肺癌手術における No-touch isolation technique (NTIT)としての部分切除先行肺葉切除法の多施設共同後ろ向き観察研究(ILO2206／YCTS2201):帝倫 22-084 号)のデータベースに登録された患者さんのうち、2017 年 1 月 1 日から 2018 年 12 月 31 日までに臨床病期 I 期の非小細胞肺がんに対して肺葉切除を受けられた 1,494 名(このうち本学における手術症例は 59 名)の方の診療情報を用い、再発の有無・時期・再発した場所とその後の経過を分析します。新たな検査や治療は行いません。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院

(データは管理機関である神奈川県立がんセンターから提供を受けます)

〔個人情報の取り扱い〕 データは氏名や患者番号などを削除し、他の情報と照合しなければ個人を同定できない形に加工したうえで解析します。研究終了後はデータセットを倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センターで 10 年間保管した後に廃棄します。研究成果は集計した結果として発表し、個人が特定されることはありません。

対象となる患者さんで、ご自身の診療情報の研究への使用をご承諾いただけない場合や、より詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

なお、他の医療機関で手術を受けられた方は、その医療機関にお問い合わせください。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 氏名 山内 良兼 職名 准教授
研究分担者: 氏名 坂尾 幸則 職名 教授
氏名 髙橋 光 職名 助手
所属:帝京大学医学部外科学講座
住所:東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表)